



札幌東支部

寺田 純子

Jyunko Terada

7月15日(月)、所長と私は、(株)TKC出版の“米国(シカゴ・ニューヨーク)会計事務所等視察旅行”に参加するために新千歳空港を出発した。

もともと、今年は海外旅行はやめにしようと話をしていた、6月末から京都・倉敷旅行を

予定したのに、5月の連休に机の上を整理していた所長が見つけたパンフレット。まだ申し込みが間に合うと、急ぎよ出発が決まった。

英語に拒否反応を起こす私は、英訳・和訳の機械を購入、送られてきた『アメリカ税金ハンドブック』の本に目を通す暇もなく、飛行機に乗った。でも、飛行機の中で、その本を読んだ時、アメリカの税金事情がよく分かり、少し楽しかった。

まず、シカゴ着、市内観光を経てホテルへ。市内レストランでの夕食、アメリカは何でも大きい。ステーキ、サラダ、デザート。食べるのは大変。以前ハワイに行った時、ホテルの食事以外は、スタバでサンドイッチを一つ買うと、二人で食事ができた。

次の日の朝、6時頃集合、バスの中で朝食(これって朝食?ポテトチップス、リンゴ、サンドイッチ)。喉が通らないけど、食べた。

会計事務所の視察が2カ所。1カ所は日本語の説明付き。日本人でアメリカで仕事をしている人がいる。すごいと思う。話は読んだ本とほとんど同じ話だったので、なんとなく分かったけれど…。また、生き残る会計事務所の条件として、『分析能力・コンサルティング能力・AI・そして、アウトソーシング』。アウトソーシングは、記帳代行とは違う。皆、努力している。次はコミュニティバンク。ここは全て英語だった。通訳がついたけど、理解不能。ハローでごまかした。

次の日はニューヨークへ、着いた日は市内観光。自由の女神って、こんな所にある。

汗だくになりながら、歩くのをいやがる所長

と喧嘩しながら、皆さまの後について歩く。暑かったですね。また、ニューヨークは道路が狭いのに、工事をしていて、そこを車が通っていく。すごい、よくぶつからないものだ。

次の日も会計事務所視察3カ所。皆きれいな事務所で、仕事をしている雰囲気がない。

視察が終わって宿泊のホテルに戻る途中、飯塚毅名誉会長が昭和37年ニューヨークで開催された世界会計人会議に出席した時の宿泊ホテルであるプラザホテルに寄った。今は外壁工事をしているけど、由緒ある格式の高いホテル。素晴らしい。

ここで名誉会長は、職業会計人を取り巻く環境やそれらに対する対応策について熟考し、銀行による顧問先の収奪から会計事務所を防衛しなければならないとして、自ら計算センターを作ることを決心したという。そのプラザホテルのロビーで写真を撮った。

私は、所長が独立すると言った時に簿記を始めたから、他の会計事務所を知らない。TKCシステム以外のシステムを知らない。会計事務所の職域を守るための苦勞を知らないけど、どのような業界でも、先人達の努力の上に成り立っている。そして、正しくそれを理解し、次につないでいくのが、私たちの仕事だと思う。

そんな事を考えながら、札幌に戻ってきた。そこで受け取ったのが、坂本孝司先生の『税理士の未来』。いい本ですね。私たちはこうした先生のご指導を受けて仕事をさせていただいている。それでも、なにも知らなかった私も税理士として25年を超えた。そろそろ過去を振り返る時代となったが、私はどんな税理士だったのだろうか。あたらめて考えさせられる海外旅行だった。

